



題字は松井岳洋筆

No.376

平成18年3月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会 認可

神奈川 碩心会

発行者 加藤岳洵

編集者 磯村岳朋

神奈川県葉山町堀内206

Tel/Fax.046-875-3723

「詩吟」という言葉を

初めて聞いたとき

会計監査 菊池 岳 悠

今から30数年前のことですが、2人の子供を連れて山梨の実家へ帰郷した折り、滞在中のある日の夕方母から「今夜は何人かが我家に集まり甲府から先生がみえて「詩吟」の練習があるから」と言われ、私達はいつもより早めに床に就きました。

襖一枚隔てた隣の部屋で、両親や親しい友達5、6人が集まり初めて耳にする「詩吟」なるものをうたっておりました。近くの農家の人達なので夜こうしてお稽古をしているとのことでした。

私はその時敢えて「詩吟」とはどんなものなのか、母達に尋ねるでもなく興味も示さず「年を取ったらあのような趣味を持ち楽しむのも良いものだなあ」と思った程度でした。それから10年程経った頃でしょうか。縁あ

って村田先生の以前のお住いでお稽古をさせて頂くことになり、私も「詩吟」と直接出会いました。両親も依然続けており、今度は直ぐに興味を湧き第3子に手がかかる時でした。が正面から取り組むことにしました。

爾来、村田先生の素晴らしい吟のご指導の元、感動を深め成長し、良いお仲間にもめぐり会い、いろいろな大会にも数多く出させて頂いて今日まで27年間、無事続けることが出来ました。

たまに実家へ行ったとき、今は亡き両親の最終の許証の額に向って「私もまだ楽しんで詩吟・詩舞をやっていますよ」と手を合わせております。両親の吟は翠心流でお互い発表会には行き来しませんでした。母は孫達の結婚式でよくお祝いの詩を吟じておりましたのでその吟詠は今でも心に残っております。これからも、伝統ある碩心会の一員として諸先生方のご指導のもと皆様と共に歩んで行きたいと願っております。

行事予定

○総伝会総会

日時・4月22日(土) 10時

場所・横浜ジャスト(崎陽軒)

○逗子市詩吟舞連盟発表会

日時・5月7日(日) 9時30分

場所・逗子市文化プラザホール

○第14回神奈川地区吟道大会

日時・5月20日(土) 9時30分

場所・海老名市文化会館

○年齢別吟詠大会

日時・5月27日(土)・28日(日)

場所・地球市民かながわプラザホール

お知らせ

神奈川地区吟道大会 5月20日(土)

男女合吟

吟題『山行同志に示す』2巻P18

☆尚合吟の練習を致します。

練習日

日時 5月7日(日)

4時

場所 ランチルーム

内山岳青



十段位の受審を終えて

悠吟 小野 裕 岳

久しぶりで晴天になった2月25日横須賀生涯学習センターで高段者審査会が行われました。午前中皆伝位。午後九・十段の審査があり審査委員長の挨拶で「特に十段受審者は20数年のキャリアを生かして最後の受審を精一杯吟じて下さい」とのお話がありました。

審査は7班に分かれ、私は審査委員長が、会長の加藤岳洵先生の室に当り緊張しましたが、何とか終ることが出来ました。

私が詩吟を始めたのは昭和59年であり、爾来22年になります。ビジネス第一の為、只々詩吟をやっている程度で漫然と過して参りましたが、そんな私を分け隔てもせずに先生方は熱心に御指導して下さいました。そして最近ようやく詩吟に関心も高まった所で、最終段階を迎えてしまいました。残念至極ですが今後は少しづつでも吟の心をつかむべく、亀の歩みを続けたいと思います。



これから高段者審査を受審される皆様には前者の轍を踏むことのなき様、常々精進されますことを祈念して十段位受審のご報告と致します。

第4回ふれあい講座

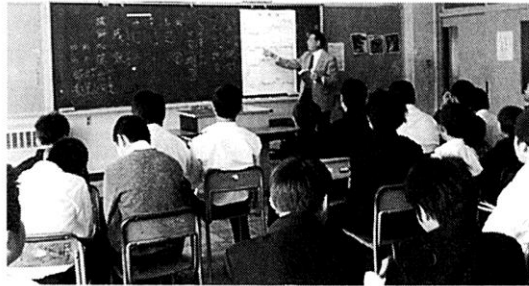
昨年11月2日(木)葉山中学校の「第4回ふれあい講座」が開催された。前回は1年生10名の参加だったが、今回は31名で受講生徒の顔はみな興味津々で熱心に聴講した。

講師側は碩心会から正副会長と青少年正副部長が参加し、和歌(短歌)、漢詩、自由詩の歴史や決まり事を総本部発行の教材「若あゆ」を併用し解説、また「偶成」や「白鳥」を吟詠を含めてできる限り分かり易く指導したが、生徒達は詩吟朗詠は初めてのことであり戸惑った顔が多く見られた。

しかし、和

歌白鳥を詠ずる頃には皆よく声が出て教室の雰囲気も和やかになっていた。

声を出す魅力を感じ取っていつか又、詩吟の門を叩くことを願いつつ講座を終了した。



節調の上がり下がりを使い易く表にした手製の教材を使い指導する松井副会長

ふれあい講座の生徒感想文

短い時間だったが、日本の文化や漢詩・和歌など普段経験することのないことを体験させてもらった。響くような声を出すのは大変だったが、又機会があったら今日のことを思い出して楽しくやりたい。

(1年A組 女)

今まで未体験で心配だったが、講師の人に教わりとても楽しくできた。声の高さや伸ばしながら低くなったり高くなったりするのが難しかった。印象はお経みたい。

(1年B組 男)

漢詩など知らない言葉や知識を教えて頂いた。講師の方がやさしく指導されてとても判り易かったが、中の記号の意味が今一つ難しかった。しかし楽しかった。

(1年C組 男)

知らないことがいっぱい分かってとても良かった。一生懸命やったからいい声が出るようになった気がする。

(1年D組 女)

漢詩についてよく分かったし、五言絶句・七言絶句も理解できた。日本の有名な人の詩も教わり楽しかった。また、小中学生用の立派な本を頂いて今後の勉強に役立てたい。

(2年D組 男)

良寛が残した珍しい俳句

顧問 千葉 岳 関

先日、角川ウオータリー百科の「奥の細道を歩く」の全編をしばらくぶりに読み直した。かつて当会企画の夏期講習会で、芭蕉の実績を中心に俳句の講座でこの奥の細道について講義を担当したことを思い出し、しばし楽しい一時を過ごすことができた。

ところで、私は最近機会あるごとに良寛作の和歌を詠ずることが好きになって来た。あながち年令のせいばかりではないと思う。

さて、奥の細道の芭蕉と僧良寛との接点は何かあったのだろうか。私としては芭蕉は俳句、良寛は和歌の達人ぐらしか考えていなかった。しかし、冒頭の書を丁寧に読み直していて誠に新しい発見をした気になった。

芭蕉が越後路の出雲崎を通り過ぎてから、69年後に良寛がこの町に生まれた。「さん」づけで呼ばれる名僧になったいきさつは衆知である。子供を愛し、名利を求めず、清貧の中ですぐれた書や、和歌、漢詩を残した。実はこの良寛さん、和歌だけかと思つたら、俳句を残していたのである。

その中の一つに「新池や蛙飛び込む音もなし」というのがある。これは本当の話だと記録されている。どこかの大先輩の句に似てい

るではないか。

良寛さんは、自らの故郷に足跡を残し、漂泊の旅心を貫いたこの大先輩芭蕉を敬愛していたのである。

(この逸話を既にご存知の方には改めて敬意を表したい。)

関東学院大の授業に参加して

許証部長 上村 岳 章

葉山在住の矢嶋教授(関東学院大比較文化学科)から自分の授業に尺八の演奏と詩吟を是非との要請があり、いろいろ相談の結果詩舞を加えてお引き受けすることになり、窓口の今井俊山さん他石川響岳、白井岳麗、白井洋舟、佐藤紫桜の各氏と私の総勢6名で、昨年10月のある日揃って出演しました。

この授業は30分の予定で構成し、今井さんの司会で、先ず尺八演奏の「呼び竹」「受け竹」で始め民謡から西洋音楽まで演奏し最後は大和調子の明暗流「本曲」で締めました。

いよいよ詩吟・詩舞に入り「名鎗日本号」「不識庵機山を撃つ」の図に題す。つづいて「春望」を連吟した後、白井先生が戦争体験を語って戦争の悲惨さを訴えて「爾靈山」を舞い、最後に全員で「金州城下の作」を合吟して終了しました。

その後、11月3日に同じ学部卒業生懇親

岳風忌

祖宗範木村岳風先生55回忌宣子夫人41回忌の法要と岳風会会員功労物故者(皆伝以上)の合祀祭が7月1日(土)に上諏訪地藏寺本堂にて行われます。碩心会より4名の方が合祀されます。

2 矢嶋岳悦(堀内)・41 大屋岳信(吟秀)
44 板橋岳雅(堀内)・133 岸本里岳(一色)

ご冥福をお祈りします。

松井 岳 篁

会があり、同じメンバーでの再出演要請があり、全員快諾し再び詩吟・詩舞を披露しました。当の矢嶋教授が空手部の部長でもあることから、前年は空手の形の演技があったことと、今回は卒業生らの空手の演技に合わせて詩文「空手道」を吟じ「詩舞」「春望」「白虎隊」と一連のプログラムを演じ、会を盛り上げることができました。因みに学長は会津白虎隊々長の子孫とのことで敢えて選曲し大いに受けました。これも葉山の関東学院セミナーハウスでの特訓の賜物です。

このように、10月末から11月初めにかけて充実した日々を送らせて頂き、関東学院とのおつき合いの縁ができました。

わたしの 雅号の由来

真燈 福本 香岳(モト)

長女に生まれた私は「モト」と命名されました。

子供の頃、お友達はみな○子とか○枝とか殆ど漢字の格好よい名前ばかりでした。羨ましく思いこのため小学校低学年の時、勝手に元子と自分で書き換えていましたら、父から戸籍通りのモトと書くように注意された想い出があります。

このため、雅号を頂いたときは嬉しさ一杯で、伯母に「香泉」と付けてもらいました。モトは何だか強いイメージを感じるので、四季の優しさ、そして響きのよい「香」が選ばれました。

春夏秋冬、泉、山、風、自然、そして先生方の良き香りを身体に戴き、むつかしい詩吟を学んで参りたいと心掛けております。

逗子A 川瀬 慧 岳(妙子)

最初に雅号を名乗るとき、本名の「妙」は白虎隊仏教に関係があり、位牌によく使用されているので遠慮して止めました。

国語辞典を開き順に頁を繰ってやっと「慧星」の言葉を見つけました。慧星は突然現れ長い白い尾を引きながら太陽の回りを進む星で「ほうきぼし」のことだそうです。

若い頃眺めた夜空は非常にきれいで輝く星や流れ星がともも素敵でした。今でもその美しさに郷愁を感じます。

この星空からの一字を雅号に頂いて、詩吟の昇段と共に現在まで続けております。

滝の坂 山口 莉 泉(尊弘)

私の名前は両親が御聖殿に依頼して命名されたもので、私自身は堅苦しい現代風でないと感じております。

そこで、長女には妻と相談して漢和辞典など調べ「友莉亜」と名付けました。当時は珍しい名前でしたが、今では姓名判断辞典にも載っております。次女には他にない名前を熟考し「明莉沙」と命名しました。

この「莉」とは、中国の香りのする花、つまりジャスミンを意味しており縁起が良いというところで引用しました。

このたび雅号を戴くに際し、娘達と共通する一字として『莉』を拝借した次第です。親バカと失笑されるのを覚悟して選ばせて頂きました。私にとって娘達は神様からの贈り物であると感謝して暮らしておりますものから、「一吟天地の心」に通ずる心境です。

会員移動

○入会 (2月1日付)

299 柳原製雄(滯朗)
逗子市沼間2-3-18
☎046-873-2406
紹介者 市原 儀 岳

○住所変更

155 大江晴風(幸和A)
横浜市戸塚区品濃町537-20
中央街区A棟1911号
☎045-822-3160

○退会

133 岸本里岳(一色)死亡(1月9日)
41 板橋岳雅(堀内)死亡(2月16日)
34 矢島岳建(堀内)
223 中村勝泉(篁風)
226 須藤月山(真澄)
249 田中秀泉(滝の坂)
251 加藤茗泉(渚)
260 小糸よし(吟秀)

No.374 会員移動の訂正

290 秋元 ➡ 秋本へ
立澤晴岳 ➡ 立澤岳晴へ
訂正してお詫び申し上げます。

編集後記

ようやく春爛漫、梅、桃、木蓮、沈丁花、水仙、満作そして桜、本当に、花盛りです。ただ裏通りを歩くだけでも、楽しい季節です。

審査会から始まって、碩心会の行事も忙しくなります。忙しくてイライラするより、春のうきうきする気持ち、何時までも、持っていたいなあと思う今日の頃です。

広報部

18年	3月	現在	会員数
葉山地区			150名
逗子・大船地区			116名
合 計			266名